

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

全国学力・学習状況調査結果について、本村教育委員会として保護者はもとより地域住民に対して説明責任を果たすことが重要であると考えます。保護者や地域住民と課題を共有し、学力向上に向けた取組を一層進めることが大切である。

児童生徒の個人情報保護の観点及び個別の学校・学級や地域の実情に配慮し、数値を盛り込んだ結果の公表は適切ではないと判断し、保護者への公表と同程度に公表するものである。

1 はじめに

令和3年度より小中一貫教育制度が導入された。本村は小・中学校各1校であるが、以前、学力面については小学校から中学校への切れ目のない継続的な指導が乏しかったことから、中学校での授業に適應できない状況もみられた。このような状況を克服するため、中学校教諭の乗り入れ授業など円滑な接続を図りながら「連携教育から一貫教育」へ移行してきた経緯がある。「めざす子ども像」を小・中学校の全職員が共有し、9年間の子どもの「学び・育ち」を願い、学校・家庭・地域・行政が一体となって学力向上に努める。

新しのつ めざす子ども像
ふるさとを愛し 夢や目標をいだいて
未来を切り拓こうとする たくましい子ども

2 調査結果の概要と主な学習状況について

全国平均正答率と比較して、以下の5段階で評価し、各教科の概要と主な学習状況を述べる。

- ・9ポイント以上「高い」 ・3ポイント以上「やや高い」 ・±3ポイント未満「同様」
- ・3ポイント以下「やや低い」 ・9ポイント以下「低い」

《小学校》 対象学年6年生

【国語】

全体的には、全国平均との比較においては「同様」と言える。

【算数】

全体的には、全国平均との比較においては「同様」と言える。

【主な学習状況など】

児童が配備されたタブレットなどのICT機器を活用している場面が多い。

- 学級の友達と意見を交換する場面でタブレットなどの ICT 機器を活用している。
- 学力向上に向けた委員会を活用しながら、1 時間の授業を大切にした教育課程の編成・実施・評価・改善を図る検証改善サイクルを確立している。

《中学校》 対象学年 3 年生

【国語】

全体的には、全国平均との比較においては「やや高い」と言える。

【数学】

全体的には、全国平均との比較においては「高い」と言える。

【主な学習状況など】

- 生徒が配備されたタブレットなどの ICT 機器を活用している場面が多い。
- 学習の中でタブレットなどの ICT 機器が勉強に役立つと考えている。
- 生徒の実態等に基づいた教育課程を編成・実施し、評価・改善を図る検証改善サイクルを確立している。

3 学力向上策について

日常的な実践を通して成果を上げていきたいと考える。以下に学力向上策を掲げる。

- 「知・徳・体」のバランスのとれた教育課程編成と豊かな教育活動の実践
- 9 年間の教科系統表の共有と日常の実践指導の積み重ね
- 小中一貫教育の実践としての小学校高学年での教科担任制の推進
- 一貫教育推進員を活用した 9 年間の切れ目のない連続した学びの創造
- スケジュール帳の有効活用、タブレット端末など ICT 機器を効果的に活用した授業
- 「ロイロノート」等による児童生徒が主体となって学び合い、高め合うことができる対話を重視した授業展開
- 算数・数学科での少人数指導・TT 指導、学習支援員の配置による個別支援の強化
- 「キャリア・パスポート」の活用、望ましい生活習慣の確立と家庭学習の習慣化
- 復習に生かせる「ノートづくり」の指導
- 授業改善に生かせる授業評価、学習評価の妥当性を高める教員研修
- AI ドリル等の活用による自学自習の確立
- 学校司書を活用した学校図書館の整備及び読書活動の充実
- 社会事象への関心を高めるための「新聞活用」を取り入れた授業実践
- 各種調査結果を基にした検証改善サイクルの確立と小中合同研修会の実施
- 授業力の向上に向けた校内研修の充実
- 「学力向上推進委員会」（小学校）による調査結果分析の共有と授業への反映
- 「漢字検定」「英語検定」「算数・数学検定」受検へのチャレンジ

□中学3年生による「政策提案会」実施に向けたプレゼンテーション

4 おわりに

本村においては調査対象の児童・生徒数が少ないことから、ひとり一人の児童・生徒へのきめ細かな学習指導が不可欠であり、調査結果において如実に成果や課題に表れる傾向がある。各学校では、調査結果を詳細に分析し、成果や課題を日常の教育活動に生かす取り組みをすでに実践している。

小学校では、学力向上委員会を設置し、子どもたちの基礎基本の定着をねらいに子どもが主役になる授業づくりの研修を積み重ねている。中学校では、小学校との接続を意識し、教科系統表を生かした授業づくりに努めている。教職員が成果を生かし、課題を共有し、学力向上に向けて子どもたちと真摯に向き合い、日常実践を通して小さな積み重ねを継続していくことが大切である。

令和3年度からの小中一貫教育導入開始に合わせて、各教室・特別教室にエアコンを設置し、子どもたちへ快適な学習空間を提供してきたことも学力向上につながってきたと考える。加えて、小学校1年生でのセカンドブック事業や中学校3年生での政策提案会の継続も効果的であると考える。今年度の自治懇談会にて成果や課題に触れながら、重ねて本調査結果の概要を説明する。

令和6年10月1日
新篠津村教育委員会